

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p6)

《3. カロリナ種》

カロリナ種の学名は *P. angulata* か *P. carolinensis* とする文献が多いが、種小名に *canadensis* を用いて、カロリナ種を改良ポプラに含む見解と思われるものがみられる。

3-1. *P. angulata* 採用文献一覧

- ◇*P. angulata* Aiton カロリナポプラ<久内1957>
- ◇*P. angulata* Aiton カロライナポプラ<杉本1978>
- ◇*P. angulata* Aiton カロリナハコヤナギ<北村文雄・他1982>
- ◇*P. angulata* Ait. カロリナポプラ(カロリナハコヤナギ)<家永・他1996>
- ◇*P. angulata* カロリナポプラ<矢口2009>
- ◇*P. angulata* カロリナポプラ<野田坂2011>
- ◇*P. angulata* Aiton カロリナハコヤナギ(カロリナポプラ)<YList2012>

3-2. *P. angulata* (別名 *P. carolinensis*) 採用文献一覧

- ◇*P. angulata* Aiton (*P. carolinensis* Moench.) (和名なし *)<松崎・他1983>
- ◇*P. angulata* Aiton (*P. carolinensis* Foug.) カロライナポプラ<長谷川1988, 1996, 2001, 2003>

3-3. *P. carolinensis* 採用文献一覧

- ◇*P. carolinensis* Moench (*P. angulata* Ait.) カロライナハコヤナギ<上原1959>
- ◇*P. carolinensis* Moench カロリナポプラ<沼田1990>

3-4. *P. × canadensis* 採用文献一覧(カロリナ種を改良ポプラに含む)

- ◇*P. × canadensis* カロリナポプラ(カイリョウポプラ)<横井2003>
- ◇*P. × canadensis* カロライナポプラ<トニー・他2005>
- ◇*P. × canadensis* (*P. × euroamericana*) カイリョウポプラ(カロリナポプラ)<大場2009>

3-5. その他を採用する文献

- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench. カロリナポプラ<松崎・他1983>

3-6. カロリナ種の由来

a. 発生

- ・野田坂(2011)によると、「*P. deltoides* と *P. nigra* L.との雑種から選抜されたもので18世紀中ごろフランスで生まれたといわれている」と記されている。
- ・小林(1980)によると、「アメリカの *P. deltoides* (*) はヨーロッパに渡り、*P. nigra* (*)との間に多数の天然雑種ができています。これらをカナダポプラまたはカロリナ種と総称している。近年イタリアでこれらから改良したイタリア改良ポプラとよばれるものは成長がひじょうに速く、日本でも広められてきた」と記されている。
- ・グリーン(1961)によると、「(改良ポプラの *) 養苗着手の当初には巨大種、カマブチ種、カロリナ種など 在来の改良ポプラも相当数あったが、イタリア系の実用品種が増加するにつれてこれらの在来種(従来までの外来種 *)はおいおい少なくなっていく」と記されている。

b. 日本での推移

- ・松崎・他(1983)によると、*P. angulata* (カロリナ種 *) 明治初年渡来、*P. deltoides* (ナミキドロ *) 明治末年渡来、*P. nigra* var. *italica* (狭円柱樹形 *) 明治中年渡来、と記されている。(2-5. c掲載と同)
- ・上原(1959)によると、「*P. nigra* 明治初年に渡来。*P. carolinensis* 明治初年に渡来す(中略) 並木として関西地方至るところにあり」と記されている。
- ・久内(1957)によると、「朝日新聞社が発刊した、並木道という道路樹のことを書いた本に『都公園緑地部では(中略) 風に強いカロリナ・ポプラを大阪から取寄せ(中略) カロリナポプラはパイ煙にも強く、東京の並木のニューフェイスとして、その登場が期待されている至々』と書いてあった」と記されている。
- ・生原(2005)によると、「東京の街路樹として植えられているのは、樹高が低くて暑さにも強いカロリナポプラで、つやのあるひし形の葉をもち、よく風に揺らぐ」と記されている。

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p7)

c. カロリナ種の現状

- ・北村・他(1982)によると、「(*P. nigra* var. *italica* *) 林業用に多くの品種がつくられているが、都市樹木向きの品種は特になし。類縁種で緑化に使われているものを次に示す。カロリナハコヤナギ(*P. angulata* Aiton) (以下略)」と記されている。
- ・横井(2003)によると、カロリナポプラ(カイリョウポプラ)には、栽培品種 'Aurea' ('オウレア'), 'Robusta' ('ロブスタ'), 'Serotina' ('セロティナ'), 'Serotina Aurea' ('セロティナ オウレア'), などがあると述べている(2-5. d. 掲載と同)。
- ・トニー・他(2005)によると、カロライナポプラは交雑種幾つかの総称で、'アウレア'、'エウゲネイ'、'ロブスタ'、'セロティナ'、などがあると述べている(2-5. d. 掲載と同)。

3-7. カロリナ種の考察

「3-4」に記したように、カロリナ種を改良ポプラの中にも含める考えがあるが、「2-5. 改良ポプラの由来」や「3-6. カロリナ種の由来」で示した文献記述によると、改良ポプラもカロリナ種も共にアメリカの *P. deltoides* とヨーロッパの *P. nigra* との雑種由来であるとしており、カロリナ種が多数の栽培品種群であるとすれば、改良ポプラと同じグループとしてまとめることは一つの考え方ではある。

しかし、第二次世界大戦中の木材不足から作り出されたイタリアポプラは、戦後になると改良ポプラブームが世界各国で起きて、本格的に日本に改良ポプラが渡来したのは昭和29(1954)年頃とされている。

一方カロリナ種はすでに明治の初めごろには渡来していたものと考えられ、同じ昭和29年頃には関西地方では広く街路樹として用いられていたとされている。クローンによる増殖であったとすれば、種としての特徴は比較的安定した形態であることが考えられる。

カロリナ種は18世紀中ごろにフランスで生まれて発見された自然交雑種とされ、これに更に人為的に手を加えて生まれたものが改良ポプラであるならば、同じ両親由来の交雑種であったとしても、カロリナ種と改良ポプラが同じ学名で扱われることは疑問である。発生もおよそ一世紀もの開きがあることから、イタリア系改良ポプラ研究以後に生まれた改良ポプラと、カロリナ種とは、明確に区別しておくことが必要だと考える。

◇学名 : *P. × angulata* nom. nud. (裸名) ◇和名 : カロリナポプラ (筆者使用)